

目指せ！持続可能な社会の担い手を育む教育の実践 ～ユネスコ世界ジオパークとともに～



取組

2019年度

- 室戸ユネスコ世界ジオパーク再認定
- マレーシア視察による海外交流
- 国内ジオパーク関係校との交流

2020年度

- マレーシアの高校生の招へいと交流
- 国内ジオパーク関係校との交流

2021年度

- 国内外の世界ジオパーク生徒国際交流会の開催

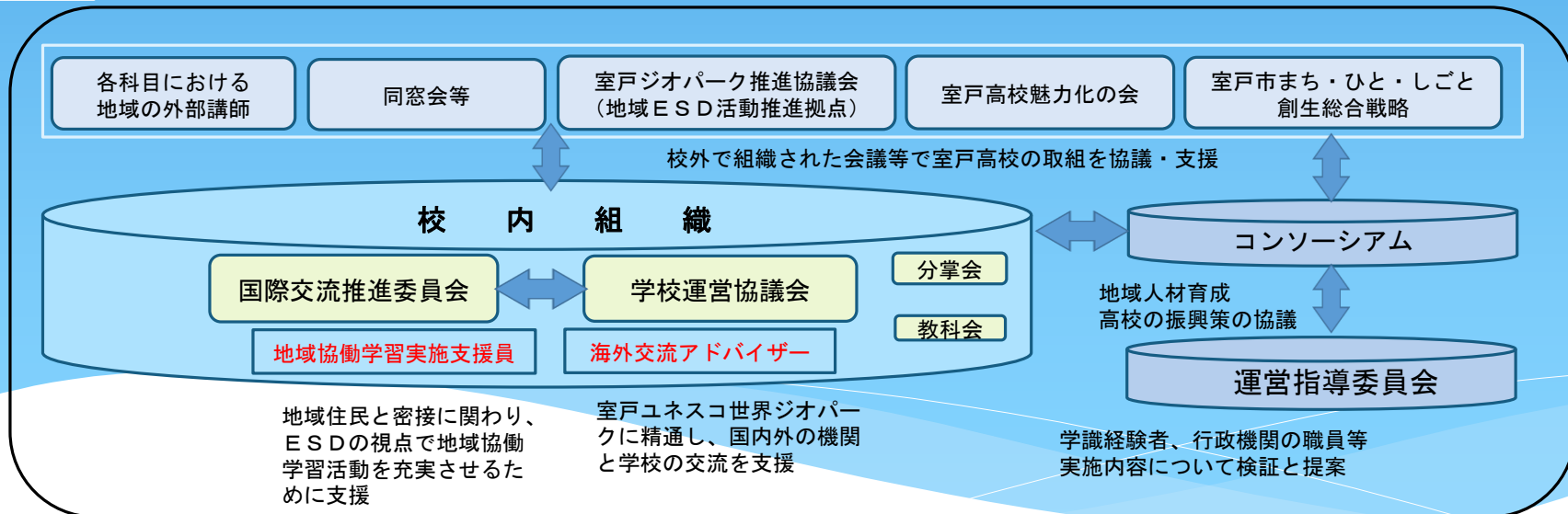
○ESD「持続可能な開発のための教育」の視点で地域貢献につながる活動を体系化 ○体験→気付き→探究→発表という学習プロセスの徹底

室戸高校 ユネスコ世界ジオパークの拠点校

期待される成果

世界的な視野を持って地域で活躍できる人材が育成される

組織



ESDの視点でカリキュラム・マネジメント・地域と協働した教育を推進

ふりがな	こうちけんきょういくいいんかい	ふりがな	こうちけんりつ むろとこうとうがっこう
管理機関名	高知県教育委員会	学校名	高知県立室戸高等学校

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

1 管理機関・学校の概要

(1) 管理機関名, 代表者名

管理機関名：高知県教育委員会

代表者名：伊藤 博明

(2) 学校名, 校長名, 研究を実施する学科

学校名：高知県立室戸高等学校

学科：普通科 専門学科 総合学科

校長名：藤田 勇人

2 取組内容

先進的な地域課題研究等の実績を踏まえた、地域人材育成に資する発展的な実践

テーマ：「目指せ！持続可能な社会の担い手を育む教育の実践」

高知県室戸市においては、少子高齢化が急速に進み、市としては現在全国で5番目に少ない人口となっている。また、高齢化が進み、雇用の減少などの課題を抱えているが、将来、室戸市を支える人材育成が喫緊の課題である。

しかしながら、これらの課題を解決するために、室戸地域が、室戸ユネスコ世界ジオパークに認定されていることを生かし、国際的なネットワークを活用しながら、地域課題を市民と高校生が考えていくグローバル人材を育成する取組は十分ではなかった。

本地域過疎化が進む本市に元気を取り戻すには、地域の人材育成に向けた組織的・継続的な取組が必要であり、その仕組みづくりが急務である。そこで、本研究においては、ユネスコ世界ジオパークに関わる地域唯一の学校として、その資源を有効に活用し、世界のさまざまな地域と関わることで、グローバルな視点で物事を捉えることができる資質を持つ人材を育てたい。

この世界ジオパークの基本理念は、地域に残る自然遺産及び文化遺産をツーリズム、教育、防災などに生かすことで地域経済の持続可能な発展を目指すという部分にある。室戸高等学校は、地域への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、地域の発展に貢献できる人材の育成を目指しており、室戸ユネスコ世界ジオパークに関わる地域唯一の高等学校（総合学科）として地域理解と地域の課題発見解決学習に取り組んでおり、地域教育や資源の保護・保存にもこれまで大きな役割を担ってきた。

今後は、現在の地域課題の解決の取組に加え、「持続可能な開発のための教育」（ESD）のグローバルな視点を取り入れた教育を更に推進することで、一人ひとりが自分にできることを考えて実践していく力を身に付け、世界的な視野を持って地域で活躍できる人材の育成を目指す。

具体的な取組内容として、これまでの科目「産業社会と人間（室戸学）」、「ジオパーク学」、課題研究、キャリア教育の取組をさらに発展させ、人とのつながりの深化、地域への貢献を目標としたカリキュラム・マネジメントの開発に取り組む。

さらに、ESDの視点で地域貢献につながる取組を体系化するとともに、世界ジオパークのつながりで国内外の関係機関との交流に取り組み、生徒が積極的に活動する機会を与える。

これらの取組によって、将来、地域産業を支えるグローバル人材を育成する。

【海外交流の予定】

- ・姉妹ジオパークを結んでいるマレーシアのランカウィ島（ユネスコ世界ジオパーク認定地域）の高校生との交流（H30年10月、室戸ジオパーク推進協議会とランカウィ開発機構とが姉妹ジオパークを締結）

- ・マレーシアのランカウィ島への視察・訪問（ユネスコ世界ジオパーク交流）
- ・オーストラリアのポートリンカーン市との交流継続（地域間交流）

3 管理・運営方法

(1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
室戸ジオパーク推進協議会	会長 室戸市長 植田 壮一郎
室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会	委員長 高知大学 次世代地域創造センター 准教授 赤池 慎吾
ESD活動拠点センター	センター長 和田 康治
高知県立室戸高等学校	校長 藤田 勇人
高知県教育委員会	高知県教育長 伊藤 博明

(2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有を図るため、また、取組のPDCAサイクルを推進するために、室戸高等学校の推進体制としては、従前から国際関係の取組を企画・運営してきた国際交流推進委員会をESDの視点で見直し、海外交流アドバイザー、地域協働学習実施支援員を加え再編成する。

一方、地域人材を活用した校外の推進体制としては、「室戸市まち・ひと・しごと創生推進事業」に基づき、学識経験者を含むコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等に向けた取組と海外交流による効果的な人材育成に向けた取組の検討を進めていく。

また、学校教育に専門知識を有する者、学識経験者、行政機関の職員等、第三者による運営指導委員会を構成し、取組状況を共有するとともに企画運営に対して助言を行ってもらう。

さらに、室戸高等学校においては、地域や関係機関との連携のため、本年度から、室戸市教育委員会をはじめ、地域の企業、商工会等の関係機関の代表等、約10名の外部委員により組織する学校運営協議会において学校運営全体を評価し、学校計画に意見をいただくことになっている。

なお、行政主催の「室戸高校魅力化の会」でも本事業の経過を報告し、ご意見をいただく。このような組織が互いに連携することで情報共有を図り、PDCAを回していく。

(3) コンソーシアムにおける研究開発体制

機関名	具体的な役割分担
室戸ジオパーク推進協議会	世界ジオパーク拠点校として、世界ジオパーク関連交流校との連携、室戸高等学校及び室戸ジオパークのPR活動
室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議	地域実践活動を通じた指導・助言地域課題についての問題提起、整理、解決策等についての指導・助言
室戸ESD活動支援センター	地域のESD推進機関として、学校への指導・助言
高知県立室戸高等学校	研究開発に関する総括
高知県教育委員会	全体総括

(4) カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型・プロフェッショナル型）、海外交流アドバイザー（グローバル型）の指定及び配置計画

海外交流アドバイザーは、室戸ユネスコ世界ジオパークに理解のある者で、海外の機関と連携交渉及び生徒交流の中心的な業務を行うために、また幅広い視野で指導、助言をいただくため、2名体制とし、1日8時間程度、週2～3日程度、配置する。

- 岩崎 由紀
室戸地域おこし協力隊
地域課題解決活動、海外留学経験
- 小笠原 翼
室戸ジオパーク推進協議会 国際交流専門員

(5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

地域協働学習実施支援員は、地域課題の解決等の学習の企画・外部との調整・運営に係る業務を担い、総合的な探究の時間や各種協議会に参加する。

- 小笠原 翼 (海外交流アドバイザー兼務)
室戸ジオパーク推進協議会 国際交流専門員

(6) 運営指導委員会の体制

	氏名	備考
1	岩井 雅夫	高知大学海洋コア総合研究センター 副センター長
2	高橋 唯	室戸ジオパーク推進協議会 地質専門員
3	近森 憲助	鳴門教育大学 名誉教授
4	杉尾 智子	独立行政法人国際協力機構四国センター 高知県国際協力支援員
5	別府 誠	高知県 観光振興部 地域観光課長

(7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

室戸高等学校のESDの取組は、「体験する」「気付く」「探究する」「発表する」という一連のプロセスに基づき、「室戸を知り、室戸のすばらしさを伝える」ことである。

生徒たちは、室戸の様々な遺産を探し当て、まず、自分たちがしっかりと理解し、多くの人にその魅力を伝える学習を行っている。そして、このような学校全体の教育活動をより効果的なものにするため、世界ジオパークに関わる学校として、キャリア教育と同様、ESDの視点も取り入れ、計画的、系統的に実践することが大切である。

そのため、カリキュラム・マネジメントの視点に立って、本校のビジョンである「全ての教育活動を地域貢献につなげる」ことを目指した活動に取り組む。

その際、キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」については、運営指導委員会、コンソーシアムの代表者会、学校運営協議会等で協議し、地域で必要な人材が育成できているのかを確認する。

(8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

高知県教育委員会では、県立高等学校再編振興計画「後期実施計画」において、地域人材育成に取り組むこととしており、国の事業とは別に、令和元年度から新規に「地域人材育成事業」を立ち上げ、高等学校が地域（市町村、産業界、高等教育機関等）との協働によるコンソーシアムの構築に係る予算（コーディネータの活用等を含む）を計上することを計画している。

コンソーシアムでは、地域人材育成についての協議に加え、室戸高等学校の振興策全般についても協議を行ってもらい、地域振興の核としての高等学校の機能強化に取り組み、地域人材の育成を目指す。

(9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

新学習指導要領では、未来を切り拓くために必要な資質・能力を身に付けるとともに、地域への課題意識や貢献意識をもち、将来、地域で地域ならではの新しい価値を創造し、新たな時代を地域から分厚く支えることのできる人材の育成が求められている。

また、コンソーシアムは、地域の課題をもとに体験と実践を伴った探究的な学びを実現するために構築されるものであり、カリキュラム開発からその検証までの役割を果たすものであること、また、グローバル人材育成のための進捗管理を行うものであることから、最低3年間は継続し、本事業の目的の実現を図る。

あわせて、地域と学校をつなぐ仕組みが構築されるまでは、地域協働学習実施支援員、海外交流アドバイザーを配置する。

また、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の導入を推進し、コンソーシアム等、各会議からの報告・連絡を受け、指導・助言を行う。

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	こうちけんりつむるとこうとうがっこう				②所在都道府県	高知県
2019～2021	①学校名	高知県立室戸高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	1学年定員80名だが、生徒数が激減して全生徒数は93名	
総合学科	34	19	40		93		
⑥研究開発構想名	目指せ！持続可能な社会の担い手を育む教育の実践						
⑦研究開発の概要	<p>E S Dの視点で地域貢献につながる活動を体系化する。また、ジオパークを題材にした海外交流体験によるグローバルな視点を加えた、カリキュラム・マネジメントを行い、本校がこれまで取り組んできたキャリア教育によって培われてきたキャリアを形成する基礎的・汎用的能力をさらに向上させ、将来、地域を担う人材を育成する。</p>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>本地域は少子高齢化が急速に進み、市としては現在全国で5番目に少ない人口となっている。過疎化が進む本市に元気を取り戻すには、地域の人材育成に向けた組織的・継続的な取組が必要であり、その仕組みづくりが急務である。そこで、本研究においては、ユネスコ世界ジオパークに関わる地域唯一の学校として、その資源を有効に活用し、世界のさまざまな地域と関わることで、グローバルな視点で物事を捉えることができる資質を持つ人材を育てたい。また、総合学科高等学校ならではの教育活動の特色を生かし、郷土理解の学習を通して、地域の文化、歴史、生活、産業などに深い見識を持ち、将来、地域産業に関わり、地域産業に参画する人材を育てる。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>高知県室戸市においては、少子高齢化が急速に進み、雇用の減少など、将来、室戸市を支える人材育成が喫緊の課題である。しかしながら、これらの課題を解決するために、室戸地域が、室戸ユネスコ世界ジオパークに認定されていることを生かし、国際的なネットワークを活用しながら、地域課題を市民と高校生が考えていくグローバル人材育成の取組は十分ではなかった。</p> <p>過疎化が進む本市に元気を取り戻すには、地域の人材育成に向けた組織的・継続的な取組が必要であり、その仕組みづくりが急務である。そこで、本研究においては、ユネスコ世界ジオパークに関わる地域唯一の学校として、その資源を有効に活用し、世界のさまざまな地域と関わることで、グローバルな視点で物事を捉えることができる人材を育てたい。</p> <p>今後、多くの生徒たちが、海外の世界ジオパークの地域・国々と関わることで、国際的な視点で物事を考える力を育むことに繋がる。また、地元地域や国内のユネスコ世界ジオパーク地域での様々な取組を知り、伝える活動を通して、郷土愛が生まれ、将来地域を支える人材が育つと考える。</p>					
		<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>本校では、総合学科の特色を生かし、多様な選択教科・科目を通じて、様々な知識や技能を養い、問題の解決や探究活動に主体的、協働的に取り組む態度を養っている。</p> <p>特に科目「産業社会と人間」の学習では、地域や産業界等と積極的に連携を図り、郷土理解を深める目的で、ジオパークに関連する学習を「室戸学」と名付け、年間6回程度外部講師を招き、基本的な知識と課題解決に取り組もうとする姿勢を身に付けさせる。そして2年次の「続・産業社会と人間」の授業に円滑に連結させ、地域の企</p>					

<p style="text-align: center;">⑧- 2 具 体 的 内 容</p>	<p>業の経済活動を知り、働くことの意義や社会人としての責務を理解することにつながる。</p> <p>また、学校設定科目として開設している「ジオパーク学」の授業では、ジオパークの基礎知識を身に付けるだけではなく、各個人がジオパークの魅力や課題を発見し、地域の専門家の支援をうけながらジオパークに関する課題解決学習に取り組む。そして、その結果については、発表会を開催し、地域に広める。そして、3年次には「課題研究」において、生徒個人やグループで決めたテーマについて調査研究し、その成果を発表する。</p> <p>本校では全ての教育活動を地域貢献に繋げるという目標を設定する。生徒会活動など特別活動、学校行事や地域行事への参加、部活動、教科など、すべての教育活動が地域の活性化に連動し、地域を元気にする源となるよう取り組む。</p> <p>さらに、各日本国内の世界ジオパーク認定地域の学校間で交流を進めるだけでなく、海外交流の場も拡大させる。室戸地域と同じくマレーシア初の世界ジオパークの認定を受けているマレーシア・ランカウィジオパーク関係機関及び関係高校との交流を開始し、地域の魅力を伝えるとともに、地域の課題について考えていく。このために必要な英語力を高めるため、地域素材を生かした教材を作成し、国際交流指導員等地域の方々と協働した英語指導を行う。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p>本校が行っているE S Dの取組は、「体験する」「気付く」「探究する」「発表する」という一連のプロセスに基づき、「室戸を知り、室戸のすばらしさを伝える」ことである。生徒たちは、室戸の様々な遺産を探し当て、まず、自分たちがしっかりと理解し、多くの人にその魅力を伝える学習環境を提供する。そして、本校のビジョンである「全ての教育活動を地域貢献につなげる」ことを目指したカリキュラム・マネジメントを行う。その際、キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」について、コンソーシアム等で協議する。</p> <p>校内推進体制としては、従前から国際関係の取組を企画・運営してきた国際交流推進委員会をE S Dの視点で見直し、海外交流アドバイザー、地域協働学習実施支援員を加え再編成する。また、地域や関係機関との連携のため、室戸市教育委員会をはじめ、地域の企業、商工会、関係機関などの代表、約10名の外部委員による学校運営協議会を構成し、企画運営への助言を計画している。一方、地域人材を活用した校外推進体制としては、「室戸市まち・ひと・しごと創生推進事業」に基づき、学識経験者を含むコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等に向けた取組と海外交流による効果的な人材育成に向けた取組の検討を進めていく。その際、高知県教育委員会が組織する運営指導委員会の指導により検証していく。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p>特になし</p>
<p style="text-align: center;">⑨その他 特記事項</p>	<p>本校の海外との交流については、室戸市の姉妹都市であるオーストラリアのポートリンカーン市の高校生との交流を20年以上続けており、毎年ホームステイによる2週間程度の短期交換留学で、授業や部活動等で高校生同士の交流を行っている。</p> <p>本校は、こうした従前の海外との交流経験を生かし、グローバルな視点でジオパーク関連の様々な取組を開発し、今後さらに充実させる。</p>